

第2回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会 議事概要

1 日時

令和2(2020)年11月4日(水) 14:30~16:00

2 場所

栃木県庁 研修館 202研修室

3 出席者

別紙「出席者名簿」のとおり

4 議事

- (1) 県北地域サイクルツーリズム推進協議会規約の改正について
- (2) モデルルート(案)の試走の結果について
- (3) モデルルートの追加(案)について
- (4) 走行環境整備(路面表示・案内看板)(案)について
- (5) モデルルート(案)の名称について
- (6) モデルルートの活用の仕方の事例紹介について
- (7) 今後の進め方について

5 議事概要および委員の主な意見

議事(1) 県北地域サイクルツーリズム推進協議会規約の改正について

- ・事務局から2名の委員の追加について委員会の承認を求め、承認された。

議事(2) モデルルート(案)の試走の結果について

(3) モデルルートの追加(案)について

- ・事務局からモデルルート(案)の試走結果およびモデルルートの追加(案)について説明。その後、質疑応答を行った。

○大森(宣)委員

- ・モデルルートの追加については、県外から新幹線で来られる方にとっては良いことだと思う。

○高根沢委員

- ・モデルルートの追加について、JR 那須塩原駅とモデルルートを繋ぐルートは初心者にとって有難いものである。

- ・八方ヶ原に向かうルートは栃木ならではのコースであり、ルートを追加することでバリエーションに富んだルートとなる。

○新井委員

- ・ホテル等の施設も多いので、サイクリストに紹介等をしてほしい。

○柿沼（章）委員

- ・試走した結果、景色を楽しむ余裕のあるコースであり、魅力的なコースであると感じた。
- ・路面の砂や砂利が残っているところが気になった。

○篠原座長

- ・モデルルートの追加について、道の駅と JR 那須塩原駅の駅前の自転車の貸出との繋がりを持たせ、回遊性を高めていくことも考える必要がある。

議事（4）走行環境整備（路面表示・案内看板）（案）について

- ・事務局から走行環境整備（路面表示・案内看板）（案）について説明。その後、質疑応答を行った。

○高根沢委員

- ・走行環境整備について、路面表示があると非常に走りやすくなる。路面表示の種類と色を教えてほしい。

○大森（忠）委員

- ・県の事前の説明では、大田原市の市道部分の走行環境整備は大田原市で行ってほしいとのことであったが、大田原市としては県の事業であることから市道区間も県で整備をお願いしたい。

○高藤委員

- ・案内看板等について、サイクリストではない一般の観光客が案内看板を見ても、主要地点への距離が書かれているが最短経路ではないため、誤解されるのではないかと。案内看板等にルートの名称等を入れた方が分かりやすいと思う。

○樋口氏（若杉委員代理）

- ・注意喚起の看板はサイクリスト向けのものであるが自動車に向けた注意喚起の看板もあったほうが良い。
- ・次の地点までの案内はキロポスト表示でもよいのではないかと。

議事 (5) モデルルート (案) の名称について

- ・事務局からモデルルート (案) の名称について説明。その後、質疑応答を行い、再検討し後日書面審査することとなった。

○小出委員

- ・モデルルートの名称について、他県の事例を見ると〇〇ルート、〇〇街道というのが一般的で、今回挙がっている名称ではサイクリングルートとして認知されないのではないか。

○雨谷委員

- ・モデルルートの名称は、短く分かりやすい方が良い。

○高根沢委員

- ・モデルルートの名称は、ルート延長が 120km であることから、『120』という数字を名称に入れてはどうか。

○篠原座長

- ・モデルルートの名称については、他ルートと連動性を持たせた名称にしていかなければならない。
- ・モデルルートを今後 4~5 ルート設定していくのであれば、名称に冠を付けた方が良い。
- ・名称の投票の告知を行う際に、事務的に行うのではなく、市町の方々に参画してもらう工夫が必要である。

議事 (6) モデルルートの活用の仕方の事例紹介について

- ・栃木県地域振興課、矢板市、那須塩原市からモデルルートの活用の仕方の事例紹介を行った。

○亀田氏 (菅俣委員代理)

- ・モデルルートの活用として、「ぐるとち 2021」というサイクルイベントを計画している。
- ・令和 3 年 5 月の開催を予定しており、宿泊コースと日帰りコースに分けてコースの設定をしている。
- ・日帰りコースの一部には、コト消費体験を盛り込んでおり、今回の県北地域ならではのお楽しみを織り交ぜていくことを考えている。
- ・また、5 月という時期は、市町のイベントが多い時期だと伺っているので、コース沿線等の市町のイベントと連携していければと考えている。

○高橋（弘）委員

- ・矢板市におけるサイクルツーリズムの取組みとして、認知度の向上のため参加型、観戦型のレースの開催やwebサイトの開設、サイクリングマップの作成等を実施している。その結果、スポーツ交流人口は増加傾向となっているが、観光消費額の増加が課題となっている。
- ・モデルルートの活用として、八方ヶ原ヒルクライムの聖地化を行い八方ヶ原に観光客を誘導するサービスの提供、宿泊型のサイクリングツアーの企画をしていきたい。また、レンタサイクルの導入を進めていきたい。

○山口氏（小出委員代理）

- ・那須塩原市の観光課題の1つである2次交通対策の解決方法としてシェアサイクルの導入を検討しており、令和3年度以降の導入に向け、今年度はシェアサイクルの実証実験、モデルコースの作成、PR動画の作成を行っている。

○佃委員

- ・モデルルートに那須塩原駅をゲートウェイとして設定して頂けて有難い。
- ・自転車による活性化はよい取り組みでありコロナの影響で鉄道利用客も落ち込んでいるが、今回の取り組みを鉄道利用客増加にもつなげていければと思う。
- ・協力できることについては可能な範囲で協力していきたいと思う。

議事（7）今後の進め方について

- ・事務局から今後の進め方について説明された。

－以 上－

第2回 県北地域サイクルツーリズム推進協議会 出席者名簿

(○:座長)

(敬称略・座長以外は種別内五十音順/建制順)

	種別	所属・職	氏名	備考
1	学識者	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 准教授	○篠原 靖	
2		宇都宮大学地域デザイン科学部 教授	大森 宣暁	
3	観光事業者	(公社)栃木県観光物産協会 会長	新井 俊一	
4		(株)栃木プロジェクトプロ 代表取締役会長 那須高原オールスポーツアソシエーション 会長	高根沢 武一	
5		(株)JTB宇都宮支店 観光開発プロデューサー	高橋 政稔	欠席
6	有識者	ライブガーデンピチステンレ マネージャー	雨谷 千紗子	
7		宇都宮ブリッツェン セネラルマネージャー サイクルスポーツマネージメント(株) 代表取締役社長	柿沼 章	
8		自転車活用推進アドバイザー	高坂 美歩	欠席
9		ラジオパーソナリティ/リポーター	棚橋 麻衣	欠席
10		那須プレーゼン/NASPO(株) 代表取締役	若杉 厚仁	代理 広報・マーケティングマネージャー 樋口 峻明
11	交通事業者	東日本旅客鉄道(株)大宮支社企画室企画調整課 課長	佃 晋太郎	
12	通過市町	大田原市教育部 部長	大森 忠夫	
13		矢板市総合政策部 部長	高橋 弘一	
14		那須塩原市企画部 部長	小出 浩美	
15		さくら市総合政策部 部長	高山 登	代理 総合政策課 課長 高野 洋
16		塩谷町企画調整課 課長	柿沼 肇	代理 企画調整課 主査 磯 脩治
17		那須町教育委員会生涯学習課 課長	高藤 建	
18	道路管理者	国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所 所長	井上 啓	代理 管理第二課 建設専門官 工藤 晃利
19		栃木県矢板土木事務所 所長	野尻 芳昭	代理 次長兼企画調査部長 古橋 明
20		栃木県大田原土木事務所 所長	平山 浩之	代理 次長兼企画調査部長 高山 誠
21	交通管理者	栃木県県警本部交通規制課 課長	吉田 学	代理 交通規制課 係長 岩瀬 光広
22		栃木県那須塩原警察署 署長	和氣 安男	代理 交通総務課 交通規制係長 栗崎 崇彦
23		栃木県大田原警察署 署長	谷野 太	代理 交通課 交通総務係 主任 辻 剛
24		栃木県さくら警察署 署長	添田 敦男	欠席
25		栃木県矢板警察署 署長	高原 儀人	代理 交通課 交通総務係長 野中 正規
26	行政	栃木県総合政策部地域振興課 課長	菅俣 宗良	代理 地域づくり支援担当 課長補佐 亀田 厚郎
27		栃木県産業労働観光部観光交流課 課長	鱒淵 繁義	代理 観光プロモーション班 班長 小池 由紀
28		栃木県県土整備部交通政策課 課長	谷 英夫	